

令和3年度（第14期第5回）小平市廃棄物減量等推進審議会
会 議 次 第

令和3年9月21日（火）
午後2時00分～
リサイクルセンター
2階 多目的ルーム

- 1 開 会
- 2 事務局挨拶
- 3 議事
 - ・ 山谷会長による研修「事業系ごみ処理手数料について」について
 - ・ 渡辺副会長による研修「SDGsと食品廃棄物の発生抑制」について
- 4 報告事項
 - ・ ごみ収集カレンダー（雑がみ袋付き）全戸配布について
 - ・ 指定収集袋のばら売り実施について
 - ・ リサイクルきゃらぼん開催報告
 - ・ バックヤードツアー開催報告
 - ・ こだいら環境デー開催案内
 - ・ 令和3年度第1四半期（4～6月）のごみ量の報告
- 5 閉会

諮問事項

「小平市一般廃棄物処理基本計画の策定について」（基本的事項）

配付資料

研修「事業系ごみ処理手数料について」	研修要旨	資料1-①
研修「事業系ごみ処理手数料について」	研修アンケート	資料1-②
研修「事業系ごみ処理手数料について」	手数料関係	資料1-③
研修「小平市の食品ロス実態調査結果について（R2）」		資料2-①
研修「食品ロスについて」	研修アンケート	資料2-②
東京都食品ロス削減推進計画の概要		資料2-③
報告事項		資料3
ばら売り実施店舗表		資料4
イベント実施報告（リサイクルきゃらぼん・バックヤードツアー）		資料5-①
こだいら環境デー（市報9月5日号5面記事）		資料5-②
令和3年度のごみ量報告（速報値）		資料6

会長	**開会の言葉と欠席委員、傍聴人について連絡**
事務局	**配布資料確認**
部長	**挨拶**
会長	それでは、次第3の議事に入りたいと思います。2点の研修について、皆様にご意見をいただきたいと思います。まず、「事業系ごみ処理手数料」についての議論から進めていきたいと思います。では、事務局からお願いします。
事務局	<p>・研修「事業系ごみ処理手数料について」についてのまとめ</p> <p>① 要旨説明</p> <p>② アンケート結果報告</p> <p>③ 手数料改定についての説明</p> <p>→小平市の事業系一般廃棄物持込手数料は、1キログラムあたり24円</p> <p>→事業系一般廃棄物処理原価の計算方法の説明</p> <p>→事業系一般廃棄物持込手数料は小平・村山・大和衛生組合構成3市で統一化が望ましい</p>
会長	皆さんの方から研修の内容と、事業系ごみ処理手数料の改定についての考え方について、ご意見やご質問ありますか。
委員	この件について、事業者の意向を何か聞いていますか。
事務局	こちらの事業系ごみ処理手数料についての事業者の意向につきましては、まだ市内業者に確認をしていませんが、見直しを進める中で、丁寧に説明をしていかなければならない内容と捉えており、適宜、情報を提供していきたいと考えています。
会長	はい、ありがとうございます。条例の改正が必要となり、まずは議員への説明が必要になります。そして、条例が改正され、排出事業者に集まっていたら、説明会が開かれることが多いです。
委員	質問になりますが、同じ小平・村山・大和衛生組合、構成3市の中で、武蔵村山市が38円と、手数料がとりわけ高くなっていることに対して、まずいくらかから38円になったかと、横並びではなく38円に移行した理由を教えてください。
会長	今年の6月まで、3市の関係は武蔵村山市、東大和市がキログラムあたり25円、小平市が24円でした。
事務局	武蔵村山市の38円についてですが、小平市、武蔵村山市と東大和市はもともと横並びでしたが、武蔵村山市は資料1-③の1のところに廃棄物持込手数料の現状を説明していますが、その年の負担金や搬入量によって計算は変わってきますが、武蔵村山市が検討した時は38円となり、その金額に値上げを行いました。小平市も東大和市と情報交換しながら、金額の検討を行っていますが、例えば、将来的に小平市と東大和市が40数円に上げたときは、おそらく武蔵村山市も合わせてそれに上げるという形になるのではと考えています。
副会長	武蔵村山市が計算したら38円となったということですか。
事務局	武蔵村山市が市の考えも含めて検討した結果、その時点では38円になったと認識しています。
副会長	資料中の廃棄物処理原価の算定方法は小平市の方針であって、他の市は違う方針で決めているということでしょうか。
事務局	考え方は3市で基本的に同じ考えを持っていますが、資料では令和2年度の数値を使用しており、武蔵村山市は今年の7月に改定していますので、武蔵村山市の検討段階ではおそらく令和元年度以前の数値を使用されている可能性があるかと思います

	<p>ので、その時点での捉え方により差が生じていると考えています。</p>
副会長 事務局	<p>わかりました。では、年度によって変わってくるということになりますか。</p> <p>やはり搬出量によって変わりますので、まったく毎年同じ金額とはなりません。中間処理場の負担金、最終処分場の負担金ですが、これはごみ量等で変わることをご理解いただければと思います。小平・村山・大和衛生組合のごみ焼却施設の建て替えについて、以前お話ししましたが、建設費などにより後々あがってきますので、これによっても変わってくるということになります。</p>
副会長	<p>新しい炉が動き出すとコストも色々変わってくると思いますので、金額については色々な視点で見た方がいいかもしれません。</p>
会長	<p>ばらつきが出るということで、3年間のアベレージで計算しているところもあります。あと、受益者負担率というものもあり、100%を念頭に置かれたかもしれませんが、おそらく受益者負担率は80%にしているケースが多いようです。そもそもこのキログラムあたりの処理原価ですが、自治体によってどこまで費用を含めるかが違ってきます。急激な値上げにより排出事業者にとって負担となって商売に影響を与えないよう、受益者負担率の考え方によって調整をし、激変緩和を行ったと推測されます。</p>
事務局	<p>資料1-③の比較表の一番上は43円ですが、その次の42円の浅川清流環境組合は最近建て替えをしたばかりで、そういう点でも負担金が大きくなり高額になっていると推測されます。一方で、会長が言われた激変緩和的なものについても、他の事例を研究したいと思います。</p>
副会長	<p>平成10年4月1日からこの事業系ごみ処理手数料が全く値上げされていなかったことに非常に驚きました。その間、家庭系ごみに関しては有料となりましたが、事業系ごみの方はなぜ見直しをずっとしなかったのかと疑問にも思えました。</p>
会長	<p>家庭系ごみを有料化した場合、家庭系ごみと事業系ごみの負担バランスに市民の目も向き、行政もこのことを考えるようになり、このような思考プロセスがあるのではと考えます。家庭系ごみを改定してから事業系ごみを改定する自治体が多いです。武蔵村山市は家庭系ごみ有料化の前に事業系ごみの有料をし、東大和市でも来年にも条例改正の予定が入っている状況です。小平市でも家庭系ごみの有料化、戸別収集に踏み切って、今度は事業系ごみということで、色々やらなければならないことがある中で、順に行っていくということでしょうか。</p>
事務局	<p>事業系ごみ処理手数料がここ何年も改定されていないのはその通りです。一方で、家庭系ごみに関しては数年前までは無料でしたが、一定の受益者負担が必要であり、家庭系ごみは事業系ごみと違って100%の負担率ではありません。かかっている経費の一部ということです。ですから本当の原価を反映させると袋はもっと高額になります。ただ、家庭系ごみについては、どこまで許容できるか、他市との均衡等を考慮し、今の料金に設定しています。処理費のすべてではないとご理解ください。事業系ごみの方ですが、家庭系ごみを有料化したので、事業系ごみも料金を見直すべきという議論は以前からありました。先ほど説明した中で、前期の審議会において料金の見直しを行うべきとお答えをいただいております、検討自体は進めていました。武蔵村山市、東大和市と小平市の担当者が集まり、見直しの議論を行っていました。しかし、コロナ禍の影響で事業系ごみに大きな変化があり、飲食店が打撃を受けているということもあり、いますぐの見直しはせずに、検討を続けつつ、時期を見計らって見直しを実施する予定です。</p>

会長	ただ見直しが遅くなり急激に上げてしまうと、排出事業者は大きな変化を受けることが考えられます。定期的に見直すことが大事です。今回少し遅いのではないかというのは、ご指摘の通りです。
委員	私は事業者としてコンサル業務をやっていますが、今回の見直しの対象は一般廃棄物と考えられます。紙くず、繊維等、それらを一律すべて値上げということですが、かなりの値上げになります。私は新宿に事務所を持っていますが、20リットルと10リットルの袋にシールを貼って出していますが、20リットルが一番大きな袋になり、150円程度です。これが倍になると、とても高くなると感じます。これだけ高くなると事業者には何らかのインセンティブが必要かと考えます。削減したら料金が下がりますというようなことをアピールする方法があります。あるいは事業者によって、私どもは生ごみをほとんど出さず、紙くずがほとんどです。量が多いが軽いという事業者もいます。一方で飲食業では生ごみが多く、重たいです。それが一律値上げとなると、少し不公平感が出てしまうかと考えます。このような点に対して、何らかの対応を考えていただければと思った次第です。これは要望でもあります。
事務局	まず、少量排出のお話が出ましたが、今日お話ししているのは相対と呼ばれている、個別契約を結び、一定の排出量がある事業者が出す場合の料金の見直しということですが、一方、小規模な小売店が出される場合は現在、事業系ごみ袋を買っていただいております、小平市は近隣と比較し平均的な料金となっていると認識しています。ただ、相対の料金に関しては明らかに低いという状況があり、今回これを見直したいと考えております。次に、インセンティブの話ですが、食品リサイクルを例に例えますと、食品リサイクルでの処理費用は20数円と聞いています。事業系ごみ処理手数料をリサイクルにかかる費用以上に値上げすると、食品リサイクルの方へ処理が進むのではないかという意見も出ています。このようなことから、事業者に向けては、こういったリサイクルの例も見直しを行う際には案内をしていきたいと考えています。
副会長	少量排出事業者の方は少しずつ上げていたということでしょうか。であれば、相対の方も改定していかなければ、不公平となると感じました。あと2点お聞きしたいのですが、まずアンケート結果で減量計画の提出が出ていますが、ある一定の条件の事業者には提出させていると思いますが、小平市ではどのくらいの事業者に提出させていて、どのくらいの減量の成果をあげているのか把握していたらお答えください。
事務局	この計画書ですが、小平市では床面積3000平方メートル以上の事業者に関しては、廃棄物管理責任者専任届及び、計画書を提出いただいております今年、52社にお出しいただいております。この中で前年度の廃棄物量の実績と今年度の排出の見込み量と減量目標を出していただいております。アンケートでいただいた減量計画の提出とのご意見は、計画書の項目を増やすなど、より充実を図るべきとの意見として捉えています。
会長	それともう一つ、多摩地域の小規模事業者用有料指定袋は標準的なところでも高くなっています。このような理由により、小規模事業者用有料指定袋の値上げはどの自治体も行っていないです。収集業者に収集され清掃センターに搬入するときの手数料も、小規模事業者の方は値上げを行っていません。
会長	時間になりましたので、事業系ごみ処理手数料の議論は終わります。続いて、食品ロスについて、よろしくお願ひします。では、事務局からお願ひします。
事務局	<p>・研修「SDGsと食品廃棄物の発生抑制」についてのまとめ</p> <p>① 要旨説明</p>

	<p>② アンケート結果報告</p> <p>③ 東京都 食品ロス削減推進計画の概要についての説明</p> <p>→東京都では令和元年10月の「食品ロス削減推進法」に基づき、本年から概ね5カ年を計画期間とした「食品ロス削減推進計画」を策定</p> <p>→食品ロスの発生要因や社会情勢を踏まえた現状分析や都と市町村・消費者・事業者の役割を提示</p> <p>→2030年の目標達成に向けた主な施策として、ICT、情報通信技術を活用した取り組み、未利用食品の有効利用を紹介</p> <p>→今後は事業者や消費者代表で構成されたパートナーシップ会議などで関係団体との連携を強化</p>
会長	皆さん、ご意見をよろしく願います。
事務局	アンケートの方でご意見はいただいていますので、さらに伝えたいことや、今回の説明についてご意見ある方、よろしく願います。
委員	資料の2-①にサンプル中の食品廃棄物の割合に小平市とその他の市が載っていますが、主婦としてこういうものが行われることが告示されれば、手を加えてしまうかもしれませんが、今後の食品ロスを減らしていく動機づけになります。主婦の食品ロスの出し方も少し変わってくるのではないかと思います。定期的に調査結果が出されると、日常的に計画的に家庭でも食品ロスの削減につなげることができると思います。定期的にサンプル調査を行うのが効果的だと思いますが、次のサンプル調査の日程が決まっていたら教えてください。
事務局	ありがとうございました。サンプルに関しては、小平市の一般的な戸建住宅、集合住宅等で、ごみをまんべんなく取るように収集員にも指示をし、公平に取るようにしています。ただし、専門家に聞くと、たまたまこの日に掃除等をする場合もあり、サンプルとしてはあくまで参考となると何度も伺っています。今回の調査については、国が食品ロスの取り組みを強化するということで、食品ロスの調査の実施募集を行っており、それに応募し、全国で20例の1つに選ばれました。これにより、調査を実施できました。この調査は人手が必要になりますが、もう少し簡便な組成分析というものもあり、中にどのようなごみが入っているかの調査は年一回実施していますが、このような食品ロスに特化した調査は困難なものとなります。ですので、今後についてもできれば、調査を実施していきたいと考えています。この内容を市民の方々にPRし、効果的に食品ロスを減らしていきたいと思います。
副会長	先ほど事務局からも説明がありましたが、基本計画策定において、食品ロスを盛り込むにあたって、どのような施策を市が取るべきかの指針を今回の審議会で示せればと思います。私の色々な調査の実感では、食品ロスを減らす必要があると意識している方は努力をしていますが、その必要性を感じていない人が非常に多いと思います。そういった人たちにどれだけ関心を持ってもらうかが重要です。やはり小平市としても地域性を生かしたような施策が盛り込めればよいと考えます。地域性という意味では、アンケート結果にも出ていますが、農家の立場として、都心に比べると農地の広さもあり、近くに生産現場があり、見える関係ができることをどのように生かせるかだと思います。意外と生産者が見えていれば、みなさん捨てない、あの方がどのように作ったか知っている方が捨てないということがあります。農業の現場でも規格外の農産物の処理において、食品ロスが生じることもある。こういうところをどう捉えていくか、都市部とは違った条件のところ、何か小平らしさ、地域性を出した対策が取

	<p>ればよいと思います。賞味期限、消費期限については、捨てる原因の一つになっています。賞味期限を過ぎて、すぐ食べられないものではないので、このあたりをいかに理解していただくかも重要なポイントと考えます。皆様、アイデア等いただければと思います。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>食品の保存方法によって、食品ロスを減らすことができるかもしれないと思います。保存方法についても、市民への広報等が必要ではないかと考えます。</p>
委員	<p>アンケート結果の内容がすべてできれば、食品ロスがなくなるのではないかと思います。それと、やはり市民の意識の問題が大きいと思いました。私も小さいころに、作ってもらったものを残すもったいないと学び、残さないようにしていました。なかなか最近のご家庭ですと、難しいところもあると思いますが、例えば、学校教育の場で教えていくことも必要かと思えます。子供の意識に期待したいです。子供の意識を変えていく、作っていくということで、学校教育で何らかの形で伝えていく手法を築いていきたいと思えます。意識改革も重要と思っており、意識の改革につながる企画ができればと思います。</p>
副会長	<p>意識ということなのですが、私は主婦を長い間やっており、食品をどういう風にして使いきるのか、どういう風にすればぎりぎりまで食べられるのか、いろいろな方法がある程度わかっています。しかし、今の若い主婦は子育てに忙しく、また仕事もしている方が多く、食事に対してあまり時間をかけられない方が多くなっていると思えます。学童保育に携わっており、子供のお弁当を見ても、本当に手作りは少なくなってきました。簡単にできることはとても大事ですが、いつも同じものが入っている子供が多いです。私は調理が好きで、お米を研ぎながら煮物を作る、洗い物をしながらゆでるとか同時進行が当たり前となっていますが、仕事をしている方はなかなかそこまでできないと思えます。小さな子供がいれば、なおさら難しく、これは社会問題でもあると感じます。その時に、お腹を満たすということがまず大事になり、食品に対する考え方をお母さま方に伝えてもなかなか分かってもらえません。時々、残り物で簡単にこのようにすると一品増えますと案内すると、ものすごく喜ばれることがあります。一つだけですが、食卓が豊かになり、食品ロスが減るので、小さなことでもいいからどこかで提案ができればありがたいと思っています。</p>
副会長	<p>忙しい時には、時間が取れないということがありますが、準備することが楽しみや喜びにつながることを、伝えることができればよいと思えます。週末に少し手の込んだ料理を作ってみてもいいと思えます。ある企業がクッキングバトルというものを主催していて、サルベージパーティなどもあつたりしますが、家から残っている食事を持ち寄ってそれで何ができるかを競うという取り組みがあります。こういう体験を通して、意識が変わることがあります。そのクッキングバトルの小学生版などもあり、教育にもよいと思えました。消費者の方は普段、スーパーに並んでいたものが残って捨てられると思うだけだが、例えば、農場を見学するだけでも、これだけ手をかけて出荷されているということが分かれば、食品に対する意識が変わり食品ロスが減るかもしれません。規格外の農産物をうまく配分する仕組みを作るとか、落穂拾いなどの企画を実施するのもいいかもしれません。あと、農業とは違いますが、事業系においても、アプリ等で農産物の余りがこの店舗で出ているので、そこに行けば安くで手に入る等の案内ができれば、廃棄を減らすことができると考えられます。食品ロス削減週間の説明がありましたが、意識のない人にとっては重要性を認識していないことが多いので、集中的にどこを見ても食品ロスを減らそうというような掲示</p>

	<p>をすれば、それが常識となり食品ロスを減らさないといけない意識付けとなると考えます。食品ロスを減らす標語を市民に作ってもらって、清掃車に掲げてもらって走ってもらうというのも一つのアイデアだと思います。</p>
事務局	<p>ただ今、農業のお話が出ましたけれども、農業に携わっている委員に伺いたいのですが、農産物の効果的な保存方法や調理方法などあれば、お教えてください。</p>
委員	<p>私は農業に携わっていますが、特別特殊な保存方法はなく、皆さんも知っているようなものしか知らず、農家だからといって特にはないです。ただ、農家ということもあります。生まれたころから食べ物に対する意識を厳しく育てられ、廃棄、食べ残しというものは信じられない、農家というのはそういう意識の方々が多いと思います。私もそのように教育されましたし、私の子供にも食品ロス関係に関してはかなり厳しく教育していますが、皆様のご意見を聞いて感じたのは、厳しく言うだけでは子供の意識は変わらないということです。他の委員さんからもお話しが出たように楽しみながらでもいいですし、興味を持ってもらうことも必要で、食物の大切さを教えることが重要だと、今まで厳しく教えてきた中でも反省となります。副会長から市場に出せない農産物の話がありましたが、これは少し難しい判断でありまして、農家にもある程度プライドがありまして、質の悪いものを皆様の前にお出しするわけにはいきません。事業として、職業、商売としてやっている考え方もありますので、出してしまおうと、あの農家は質の悪いものしか作っていないという見方をされることもあります。商売としてやっている農家としてはあまり質の悪いものを上げさせたくなく、農地の隅で土に埋めて土に還す方法をとっており、売れないものをどこかに流すのは、農家業界ではあまりよく思われません。一部の物を出したりはありますが、すべてを出そうとすると、バランスが難しくなります。皆様が言われることは重々承知していますが、農家サイドとしてはこのような諸事情があることをご理解いただければと思います。</p>
副会長	<p>私の実家も農家でありまして、長い間消費生活アドバイザーに携わっていました。いろんな市場に出せないものももらい、それなりの調理の仕方を考えて様々な所で提案してきました。一時、ゴーヤが流行り、自分の家にもゴーヤのカーテンを作り、たくさん食べました。ゴーヤはなかなか食べきれないので、ゴーヤの佃煮を作ったところすごく喜ばれ、皆様にお分けしました。ひと手間加えたことによって、ゴーヤの消費が大きく進んだ経験があります。このような工夫については、私もいろいろ提案し発信していきたいと思っています。</p>
副会長	<p>学校関係の方、いますでしょうか。学校教育での可能性や限界などについて伺います。</p>
委員	<p>子供たちの給食で、生産者が見えるというお話ですが、学校のお世話になっている方が地域に多くいますが、その方の届けてくれた野菜だというと、子供たちはとてもよく食べます。または、給食を調理してくれる調理員さんの名前とかを知っていると子供たちはよく食べると感じます。学校の方でも食育ということで、食品ロスについて家庭科等でやっていますが、まだ一部の学年しか取り組めていない状況があります。子供たちにもし、教育の中でやるとすると、小平市として何をどうするのかすごくわかりやすく伝えられるようにしたい。その目標がとてもはっきりしてわかりやすく簡単になっている合言葉のようになっていると、覚えて家庭でも広まっていくと思います。子供たちがもったいないとか、無駄にしてはいけないということは、少しずつできているのではないかと思います。</p>

会長	時間になりました。いろいろなご意見が出ました。この先、食品ロス削減推進計画を、小平市が策定される時にご参考にしていただければと思います。ただ今から、10分間休憩を取りたいと思います。
	休 憩
会長	時間になりましたので、再開します。次第4の報告事項に移ります。事務局からお願いします。
事務局	<p>・報告事項</p> <p>① 2021年9月版資源とごみの収集カレンダー・パンフレットについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月3日から5日までに、事業者を含むすべての世帯に配布済 ・不要になった市報等で作成できる雑がみ回収袋を同封 <p>② 指定収集袋のばら売りについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月1日より一部店舗とリサイクルセンターで指定収集袋のばら売り開始 <p>③ リサイクルきゃらばんについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資源回収を実施するイベント ・9月7日にリサイクルセンターにて実施し、約200名が来場 ・クリーンメイトこだいらから4名のボランティアが参加 <p>④ バックヤードツアーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生向けリサイクルセンター内の見学及び体験するイベント ・8月10日に実施し、親子4組、親4人と子ども5人の計9人が参加 ・施設内見学、分別体験やごみクイズを実施 <p>⑤ こだいら環境デーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境フェスティバルの代替のイベント ・9月25日に実施予定 ・リサイクルきゃらばんと環境に関する各種講座等を実施 <p>⑥ 令和3年度のごみ量について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度のごみ量（速報値）の報告 →全体的に令和3年度は令和2年度と比較し、やや減少傾向 →令和2年度よりコロナ禍の影響でごみ量が増加しているが、有料化前の水準を超えるものではない
会長	ありがとうございました。皆様の方から、ご質問あればお願いします。
副会長	報告、ありがとうございました。特に、使用頻度が少ないと考えられる燃やさないごみの袋について、ばら売りは大変いいことだと思います。1枚ずつ買えば、有料のレジ袋の代わりとして袋に買ったものを入れて帰ることができるかと思いますが、そのような使用は勧めているのでしょうか。するとよいのではと思っています。環境デーに関しては、来年はもう少し大々的にやるような計画になるでしょうか。ごみ量に関しては、有料化の効果は存分に発揮されていると思います。今年度、ごみが増えているのは、コロナ禍で在宅勤務の方が増えて家で過ごせば必然的にごみが増えるわけで、それほど悲観することはないと考えます。計画については達成できないという可能性も出てくるので、見直し等も考えていかないといけないかもしれません。
事務局	レジ袋の有料化がスタートしたのが昨年7月ですが、お店でも袋がない人がそれに入れて帰ることを見込み始めたましたが、周知をそれほどしていませんでしたので、今後お知らせする際にはそのような使い方もできると伝えていければと思います。

	<p>環境デーですが、コロナ禍でなければ大きな中央公園で実施するのですが、来年にコロナ禍が終息すれば、本来の規模で実施したく、我々も期待しています。</p> <p>ごみ量ですが、ありがとうございます。一番下の表を見ますと、有料前の平成30年度と令和元年度で約2割減少しましたが、残念ながら令和2年度、3年度と増加しました。これは副会長も言われたように、在宅の時間が大きく増えて、ごみも必然的に増えているのではないかと考えます。ただ、有料化前の水準までには至っていないので、そこは少し安堵していますが、できれば有料化開始直後程度の水準を維持できることが理想であり、今後は減らしていきたいと考えております。お話にもあった1人1日あたりのごみ量は、残念ながら現行計画を令和2年度実績で超えており、目標値達成が厳しいかと以前の審議会でもご説明したかと思いますが、次期の計画見直しも迫っており、また改めて再度設定し直し、ごみ減量を進めていきたいと考えています。</p>
会長	ありがとうございます。他にご質問いかがでしょうか。
副会長	ごみ収集車からメロディーに合わせてメッセージが流れている件についてですが、「左に曲がります」の収集車からのメッセージや動作音やエンジン音があったりで、聞き取りにくのですが、どのような内容でしょうか。
事務局	収集員の感染対策という意味もあり、ごみの出し方等を流しています。袋をよく縛ってください、マスクは燃やすごみに出してください等になります。重要なことは収集の継続と考えており、一部の自治体では収集停止のようなニュースもありました。それを防ぐことにもつながるものと考えています。今後内容を新たに作成する場合は、聞こえやすくなるようにしたいと思います。
会長	時間になりましたので、次回の日程について事務局からお願いいたします。
事務局	今回は12月17日金曜日の午後2時からを考えております。この場で皆様のご都合を確認できればと思います。お願いいたします。
会長	12月17日金曜日の午後2時からと事務局から提案いただきましたが、皆様のご都合、大丈夫でしょうか。
会長	はい、ありがとうございます。では、12月17日ということでご予定にお入れください。では、以上を持ちまして、本日は終了したいと思います。ありがとうございました。
	閉会